

令和3年度 第2回 学校運営協議会 議事録

令和3年12月1日(水) 15:00~16:30

場所:大阪府立守口東高等学校 校長室

書記:福山 昌美

【出席者】

<委員>

寺本 毅(守口市立八雲中学校 校長)【会長】

竹内 章(大阪成蹊大学 スポーツ&カルチャーセンター長)【副会長】

栗本 太郎(白鳩チルドレンセンター八雲中 園長)

竹下 友梨(株式会社 ベネッセコーポレーション)

竹中 美和(本校PTA会長)

<校長> 吉武 進

<事務局>

辻 真人(教頭)

吉澤 美香(事務長)

笹山 秋生(首席)

福山 昌美(首席)

【議事】

1. 開会の挨拶

2. 学校経営計画に絡めて、行事・日常の紹介

・体育祭(6月自粛 →延期11月にRACTABドームにて開催)

・文化祭

・教室のプロジェクター(電子黒板機能)

・1人1台端末を使った授業の取組み

・2年生進路説明会(分野別, ホテル アゴーラ 大阪守口)

・教員研修「生徒につけさせたい力」

・観点別学習評価導入に向けての研究授業①②, 研究協議

・高専大連携(模擬授業)

・「赤ちゃん先生」招来・パネルシアター発表会(家庭科授業)・・・小さい子どもたちと関わる

・トイレの改修工事が終了、近日利用開始

3. 学校経営計画の進捗状況報告

4. きょういくニュースについて・・・別紙参照

5. 協議(司会:寺本会長)

・コロナの影響が教育現場には様々あり、新しい発想で物事を進めていく必要がある。これまでとは形が変わっていく中で、検定の受験者数・部活動加入率においても健闘されていると感じる。

・リモートの授業を取り入れられているとのことだが、リモート授業と対面授業の学力定着の差異はどのような状況か。

・リモートで行う授業はあくまでも対面での授業を補うものであり、リモート授業の効果だけを検証するようなことを行っていない。登校できない期間に「学習ばなれ」を防ぐ狙いがある。

・「生徒につけさせたい力」研修で得たものを観点別学習評価にどのように繋げているのか。

・理想の生徒像を確認し、それを共有できた。それを踏まえた上で各教科にできることは何か、どのような指導が効果的か等を次年度に向けて検討しているところである。観点別学習評価に関する内規ができ、全体のルールが確立してから指導内容の方針を決めていく上で「生徒につけさせたい力」がいかされてくるものと考えている。

・3つの観点のうち「主体態度」と呼ばれる観点のみとり方が最も難しく、現場(中学校)では頭を悩ませており、ひきつづいて研修を行っているところである。現時点では「振り返り」からみとることが妥当ということになっているが、今後も検討を重ねていく必要がある。

・現在の3年生は修学旅行に行けなかったものの、文化祭当日の「後夜祭」やドームを使用したの体育祭、自粛期間が長かった部活動も例年より長くこの時期も3年生として活動させてもらっている。現在、とても充実感を感じており、守口東に入学できてよかったと思っている。

・スマートフォンの使用ルールはどのようなもので、問題点をどのように感じているのか。

・スマートフォンに関して、校内では時間を区切って「使用可」としている。使用する際、人権に配慮することを特に指導しており、特に写真や動画の撮影に関しては本人の許可なく無断ですることのないよう注意喚起をしている。

・学校経営計画の目標値に掲げている年間遅刻者数は多いのか？少ないのか？よくわからない。

・年間遅刻者数に関して、多いと言われれば多いのかもしれないが、一方で、様々な事情を抱えており登校することそのものが難しい生徒も一定数居る。そのような状況の中での取組みであることもご理解いただきたい。また、本校には「大遅刻」と「小遅刻」があり、小遅刻は本校独自設定であるが、これも合算した数値である。

6. 事務局より

・次回予定について

2月の予定, 折をみてメールによる日程調整